

ふじのくに地球環境史ミュージアムの施設・標本室紹介

事務局



岩石・化石標本室



魚類標本室

巻頭言でご報告したとおり、静岡県自然学習資料センター（ミュージアム整備課清水分室）から駿河区大谷の整備課大谷分室へ引越が終了し、もう1ヶ月がたちました。大谷分室では、NPO 事務局や各標本室もだいぶ整理が進み、仕事のできる体制が整いました。ここでは、将来の県立博物館となる、大谷分室のバックヤードの現状をご紹介します。

大谷分室は、現在1・2階の内装工事が終了し、事務局（整備課事務局）やバックヤードの研究室・標本室が利用可能になりました。図書室・展示室などの来館者利用域は、これから設計・工事を行うため、基本的に利用できません。当NPOの標本整理を行う関係者が利用可能なところは、研究室・標本室などのバックヤードだけです。

バックヤードは、標本室を含むエリアなので、標本に害をおよぼす虫（標本害虫）の侵入やカビの発生を防止する目的で、スリッパや内履きに必ずはき替え、入室することになっています。また、同じ目的で標本室内やその付近の窓は、基本的に開けないことにし、出入口の扉も、長時間の開放は禁止にしています。標本室の空調は、室内の温度湿度を保つために、24時間可動してよいことになっています。バックヤードでの飲食は、研究室・NPO 事務局以外のエリアでは、禁止にしています。これらのルールは、まだ応急的に決めたもので、これから学芸員の方と話し合いながら、標本管理などのルールを決めていく予定です。

それでは、バックヤードをご紹介します。1階北側の建物には、化石・岩石等標本室、貝類標本室、魚类等標本室があり、各標本室に隣接した部屋には、標本を整理する作成室があります。

化石・岩石等標本室は、清水分室の標本室より少し広くなりましたが、清水分室の標本室には、すでに棚におさまりきれないほどの量の標本があったので、新しい標本室でも、あまり余裕がない状態です。貝類標本室も、スペース的には、清水分室と同じぐらいの広さで、将来的に拡張が必要になりそうです。魚類標本室は、以前の標本室よりも広く、液浸がこぼれた場合に備え、床を防水用のタイルにしています。また標本室の近くには、液浸処理室が設けられています。

1階南側には、一時保管室と哺乳类等標本室と作成室、解剖室があります。一時保管室は2部屋あり、現在は採集道具や乾燥機、また未整理の岩石・化石標本などが置かれています。哺乳类等標本室は、現在はあまり標本がないので、標本棚はまだ余裕があります。解剖室には、大きい解剖台が設置され、さらに大型の冷凍庫が2台あります。冷凍庫には、さっそく多くの動物の死骸が集められ、すでにあまり余裕がありません。

次に2階北側は、昆虫標本室と植物標本室および、そこに隣接する作成室があります。昆虫標本室は、蝶類標本室と蝶類以外の昆虫標本室に分けられ、ドイツ箱を縦に収納できる新しい標本棚が設置されています。植物標



液浸処理室



哺乳類等の作成室



解剖室



昆虫標本室（蝶類標本室）



植物標本室



MPO 事務室

本室は2部屋あり、清水分室の約2倍もの広さです。また、以前は棚がほとんどなく、収納に苦労していましたが、新しい標本室には、棚と植物標本用鉄庫が設置され、整理しやすくなりました。

そして2階南側には、研究室が並びます。この研究室の並びの東端がNPO事務室になっています。この新しいNPO事務室は、清水分室の時と同じぐらいの広さの部屋ですが、解剖等の作業スペースが別室に設けられたので、以前より広く感じます。

これらのバックヤードは、まだ関係者以外

の方、当NPOの会員でも許可なく入ることができません。今のところ、ふじのくに地球環境史ミュージアムのオープンは、平成27年度末に予定されています。それまでに、より多くの方々に利用してもらえるような博物館にするために、県に協力していきたいと思えます。

1ページのご案内欄に掲載したように、10月17日（金）と19日（日）に大谷分室内の見学会を予定しています。見学を希望される方は、ぜひご参加ください。